慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	物価問題に関する二三の考察
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.10 (1922. 10) ,p.1414(40)- 1431(57)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221001-0040

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

物價問題に關する二三の考察

堀江歸一

國際卸賣物價指數

英國「ステーチスト」誌の掲げる國際卸賣物價指數に據ると、英米日三國の物價は千九百十三年來左の如き變動を示して居る。

	英	米	日
一九一三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一九一四年	一〇〇	九六、七	九五、五
一九一五年	一二七	一〇七	九六、七
一九一六年	一六〇	一二八、四	一一七、二
一九一七年	二〇六	一七〇、〇	一四八、五
一九一八年	二二六	二〇三、二	一九五、九
一九一九年	二四二	二〇二、七	二三九、五
一九二〇年	二九五	一九七、二	二五七、九
一九二一年	一八二	一二二、三	二〇〇、五
一九二二年	一五七	一二六、三	二〇〇、五
上半季			

右の表を基礎として、英米日三國の物價に就て觀察すると、第一合衆國の物價が三國を通じて、騰貴の程度最も少なく、而して最も早く下落の緒に就いたこと、第二英國の物價は一時他國の群を拔いて騰貴したが、當時の騰貴率に比較して、今日は最も強き率を以つて、低落するに至つたこと、第三日本の物價騰貴率は英米兩國の中間に位するが、下落の程度は甚だ遲々たるものであつて、之を騰貴の絶頂時代に比較して、英國の物價は五割三分、合衆國の物價は六割二分であるに對して、日本の物價は尙ほ七割七分の高きに居ることが認められるであらう。斯の如く諸國の物價には、其騰貴の趨勢に居る場合と下落の趨勢に居る場合とを問はず、其れ〴〵の特色が現はれて居るが、其事は姑く措き、私は騰落の變動の最も甚だしかつた英國の物價に就て、研究を試みる。

戰前戰後の物價變動

歐洲戰爭中交戰諸國は固より、中立諸國に至るまで、物價は急劇の勢を以つて騰

貴したのであるが、戰爭前に於ては、果して如何なる趣きを示して居つたであらうか。固より近年に於ける金產出額の增加、之に伴う貨幣價値の下落、世界經濟社會の好景氣等は相結んで、物價に漸進的騰貴を齎して已まなかつたようなものゝ、其勢たる、甚だ緩漫なるものであつて、近き將來に物價の低落を來すに至ることが想像された。其重なる原因は近年歐洲諸國から殖民地や、新開國に向つて、富源開發の目的を以つて、投下される資本の饒多なる一事であつて、現に千九百七年から同十三年に至る七年間、英國だけの對外放資を以つてして、尙ほ十億磅を超へ、其大部分は食糧幷に原料品の產出に供されたと稱される。故に是れだけの資本が平和時代に生產業に活動したならば、物資の生產高を增加して、其價格を低落せしめるに至ることは、論を俟たないのである。然るに戰爭の開始以來斯る事情は全然消滅するに至つた。即ち開戰と共に諸國に於て從來生產的事業に從事して居つた勞働者は或は兵役に就き、或は軍需品製造工場に移されると云ふ形に於て、勞働者の供給に不足を告げた一方に、斯業に投下された資本の內、流動的性質を持つものは回收されて、之に代る可き補充物を得ないことの爲めに、相重なつて、物資の產出高に減少を來すに至つたとしたならば、戰時彼の如き物價の暴騰を見ることゝ爲るのは當然である。殊に後に述べる如く、戰爭中諸國を通じて、通貨幷に信用に大なる膨脹を來した爲めに、價格の騰貴した物資に對して、多々益々需要を致すことゝ爲り、殆ど物價の騰貴をして際限なきに至らしめたのである。然しながら戰爭前に既に端を發した物價下落を惹起す可き勢力が戰後經濟社會の狀勢の復舊すると共に、働き出すのは當然の數であつて、唯何時に爲つて、果して働き出すかゞ一個の問題と爲つたのである。

之を全體から見ると、物價は或る程度まで騰貴するとしても、一方に之に對抗して、其勢を抑制する力のあることを知らなければならぬ。第一物價の騰貴に際し、其騰貴した價格の下に、依然として其物資を購入する貨幣なり、信用なりが國民の手中に在るかどうか。國家が戰時財政を維持する場合には、如何なる手段を盡しても、通貨幷に信用の膨脹を企てゝ已まないが、戰後に於ては自ら事情が異なり、國民の購買的效果を乏しからしめる。第二物價の騰貴が異常の程度に上つたならば、一部の消費者は斯る高價を拂つて、消費を續け、斯くて負擔を蒙るよりも、消費を

辭して、爲めに蒙る苦痛を以つて、輕しとして、自然消費を節約するに至るであらう、殊に暴利獲得や、投機取引が横行し、消費者にして消費を續けることは、暴利獲得者に乘ず可き隙を與へるものであると云ふ感を懷くに至つた場合には消費節約又は消費回避の念は強からざるを得ない。第三物價騰貴の勢の續く時に、其頂點には何時に爲つて、遂するものであるか、何人も之を知るを得ないが、騰貴の程度の餘りに強い場合に、國民の多數が之を以つて頂點でありとする感を懷いたならば、如何なる結果を生ずるであらうか。消費者は必ず消費を愈々物價の下落するに至つた時まで延期するであらうし、一方に生産者は物資完成の時期を急ぎ、販賣業者は其所有する物資を賣り急ぎ、是等の事實は相重なつて、一旦端を發した物價下落の勢をして急速に其赴く所に就かしめるのである。

英國に於ける物價騰落の原因

英國に於て、千九百二十年中物價下落の端の開かれたのは、以上の關係に基くものであるが、更に他に此勢を助ける幾多の事情があつた。左に其重なるものを列擧する。

第一、不生産的事業から、生産的事業に向つて、勞働の復歸したこと。軍隊の解散、軍需品工場に於ける勞働者の解雇は多數の勞働者をして自由に内外國民の一般的消費品を生産する用に就かしめ、自ら物資の産出に刺戟を與へることゝ爲つた。

第二、聯合諸國幷に殖民地に對する資金貸付の中止されたこと。戰時英國に於ては聯合諸國や殖民地から盛に物資の需要を受け、而して之に應ずるに努めた。内國に於ける生産力の減退した際に、斯く外國に物資を供給すると云ふことは、自ら物價を騰貴せしめる所以たらざるを得ない。然も英國は外國に賣却した物資の代金を自國の貸付金に依つて、振替へたのであつて、物資賣却の行はれたのは、一に此資金貸付の行はれた結果であるとすれば、今日の如く斯る貸付の行はれなくなり、僅に支拂未濟の利子が元金に振替へられる爲めに、其形で貸付金の增加を來すに過ぎない次第であるとすれば、大陸諸國や、殖民地に對する物資の賣却は是等諸國の實際に有する支拂能力を以つて、限度としなければならぬ。既に然る以上は、英國の物資に對する諸國の需要は必ず減少し、自然物價の低落を招くに至る原因と爲ることは、論を俟たないのである。

第三、生産費の減少したこと。生産費の減少が總ての事業を通じて、同樣の程度に行はれたとは見られない。然しながら多くの事業に於ては、賃銀は著しく引下げられ、原料品の價格も亦低落した以上は、生産費を縮小するに至らしめるものと認めなければならぬ。

第四、輸送力の恢復したこと。運送業に於ける勞働者の數の增加したことゝ、運送の設備の戰前に於ける狀態に復舊したことゝは、物資の輸送を敏活にするに資する所あり、殊に戰後物資の輸送に當る商船の噸數は增加し、戰前同樣の速力を以つて航海し、最も便利なる港灣に於て物資の積込、積卸を行ふことの諸點は著しく物資の輸送を容易ならしめるに至つた。

第五、輸入品價格の低落したこと。外國から輸入される食料品原料品其他の價格が最近に至つて著しく下落したことは、爭う可からざる所である。合衆國から輸入する棉花、羊毛の如きは、千九百二十年四月頃から、其價格に低落を來した。製造品の方は製造業者が團結を利用して、價格の維持を謀る爲めに、或る程度まで價格の高きを示すとしても、英國の如き多くの原料品や食料品を外國の供給に仰ぐ國に於て、其原料品の價格に下落を告げる以上は、製造品の價格も亦下落せざるを得ざる道理である。而して國內に於て勞働者の消費する食料品の價格が低落した場合には、如何なる結果を生ずるであらうか。人の食料たり、又家畜の飼料たる食糧の費用こそ、直接又間接に一般消費に上る物資の費用を決定する要素と爲るのである。而して合衆國を始め其他の諸國に於て、食糧の價格に著しき下落を來し、其れが英國にも反應を及ぼして、食糧の價格に部分的下落を告げ、今後增收の續くことに依つて、將來の下落の豫想される以上は、其一般物價に影響を及ぼすことは、自然の勢である。

第六、運賃保險料の低落したこと。千九百二十年來海運業者は運賃の低減を試み、同年末から千九百二十一年に於て、殊に減率の著しきを見るに至つた一方に、海上保險料も亦講和條約の調印以來低落するに至つた。此事たる、千九百十九年來世界に於て、就航し得る船舶の噸數の增加した一方に、世界的不景氣の影響を受けて、搭載貨物の著しく減少して居る結果であつて、今後或る期間に亙つて、繼續するものと認められるのである。

第七、爲替相場の自國に有利であること。歐洲戰爭の終熄以來、英國の磅貨は或る二三の國殊に紐育に對しては、多少の割引に爲つて居るが、他の諸國に對しては有利に爲つて居る。而して其不利と爲つて居る國に對しても、近時英國の貿易上に於ける輸入超過が減少し、一方に貿易以外の受取勘定の增加した結果として、次第に恢復の方嚮に就き、二者相俟つて低廉なる價格の下に、外國物資を輸入する勢を馴致し、國內の物價を下落させる端緒を開いたのである。

第八、外國註文の取消されるに至つたこと。千九百二十年四月以來の物價下落に就ては、其一原因を外國註文の取消されたこと、又取消されることに求めなければならぬ。何故に斯く諸外國に依つて、註文が取消されたかと云へば、或は露獨兩國の國情の安定しない爲め、又は外國消費者の消費力の制限された爲め、外國に於て物資が停滯して、其捌け口を失つたり、或は將來物價の下落することが必然の勢と目されるに至つた爲め、何人も現在に於て、物資を買入れることを見合すように爲つたり、又事實金融上に壓迫を感じたりすることが重なる原因である。而して斯く外國から註文を取消された內地の當業者は國內の取引先に向つて、矢張り註文を取消すことゝ爲り、斯くて是等の註文を失つた物資は國內に於て處分されなければならない爲めに、時に生產費にも足らざる價格を以つて、賣却されることゝ爲るのである。

第九、利潤の減少したこと。斯く市場に於て物資が停滯して、過剩に爲つた場合には、其原因が生產の過剩に在ると、註文の取消に在るとを問はず、各種の商人、製造業者幷に原料品の生產者をして利潤の減少を甘受せしめるに至るであらうし、或る場合には全然利潤の無きことに服せしめるであらう。斯くて此際には代價の決定者と爲るのは、消費者であつて、當業者の如きは他日好景氣の際に收められ可き利益を賭して、不景氣時代の損失に當ることを辭しないであらう。

第十、失業の起ること。斯る物價下落の時代には、社會全體を擧げて、物資の購入を他日に延期しようとし、又物資の購入高を節約して、不景氣の損失を避けようとする爲めに、必ず世間に失業を生ぜざるを得ない。失業の結果は勞働者階級の購買的效果を減じ、物價下落の歩を速かならしめるのである。

通貨と物價

以上は一般經濟上の方面に於て、物價に下落を來すに至つた原因を說明したものであるが、一國に於て、物價の騰落を決するには、更に通貨の關係に依つて、支配される一般的原因があるのであつて、歐洲戰爭當時交戰諸國の物價が著しく騰貴し、戰後英米諸國に於て、物價に下落を來しつゝあるが如き、前者の場合に於ては、通貨が膨脹し、後者の場合に於ては、通貨の收縮したことを以つて、重なる原因としなければならぬ。右に述べた經濟上の諸關係から、物價が騰貴するとしても、其騰貴する程度は主として通貨の增加した分量如何に依つて定まるのである。若しも戰爭中政府なり、銀行なりが通貨や、信用を膨脹させなかつたとしたならば、經濟上の關係から、物價騰貴の端を發する以上は、消費者は自然支拂の方便の不足する爲めに、物資幷に勤勞を購入することを制限しなければならなかつた筈である。然るに政府幷に銀行に依つて、購買的效果たる通貨幷に信用の製造される勢は甚だ盛であつて、其程度は物資の分量よりも大なる割合と爲つて、物價の騰貴をして殆ど限度なきに至らしめたものと認めなければならぬ。然らば斯る通貨膨脹に伴つて、如何なる弊害が生ずるかと云ふ問題が起るが、此事に就ては、既往數年間に於ける諸國の實驗は之を證明して餘りある次第であるから、爰に之を再言しない。要するに「インフレーション」の弊害として、消費者と生產者との間に利害の背馳を來し、社會的不安幷に勞働爭議を促し、賃銀增率の要求に刺戟を與へ、人爲的繁榮の下に、浪費を盛ならしめ、經費膨脹の爲めに、增稅を必要とし、生產費の增加は事業の基礎を薄弱にし、輸出貿易の衰微を招き、一旦膨脹に伴う事相の現はれた後に於ては、其反動として、再び經濟社會に幾多の波瀾を生ずるが如き、著明の事實であつて、既に膨脹の弊害の認められた以上は、收縮の必要であることは、論を俟たないのである。

之を全體の趨勢から云へば、一旦經濟上の諸原因から、物價が下落の緒に就いた場合には、通貨も亦自然に收縮する傾向を持つのである。即ち物價の平準點が低く爲れば、資金を運用するに當り、之を必要とする高の減ずる結果、銀行に就て信用を求める分量に減少を來し、從來國內に流通して居つた通貨の如きは、寧ろ銀行に回收されるであらうし、戰時物價の騰貴を極めて居つた時代に起された銀行の債務亦償還されるであらう。而して事業不振の結果、從來諸般の事業に注入された

資金は自然公債を始め第一流の有價證券に向つて、放下される爲め、是等證券の市價は必ず騰貴する、此際銀行が其所有に係る證券を市場に賣却すれば、益々市場の通貨を回收する效果を生ずることゝ爲るのである。

通貨收縮の人爲的政策

然しながら斯る自然の通貨收縮にばかり依らず、人爲的に通貨を收縮することは、物價を低落せしめる捷徑であつて、英國に於て急速なる程度に於て物價の下落したことの如き、其重なる原因として、通貨收縮の一事を擧げなければならぬ。然らば英國に於ては如何にして通貨收縮の效果が擧げられたか、其方法として行はれた所は左の數個條に外ならない。

第一、諸銀行が當座又は短期通知貸付であると、手形割引であると、一般の貸付であるとを問はず、總て、貸付に警戒を加へ、貸付金を縮小したこと。貸付金の縮小は自然預金の減少と爲り、預金の減少は信用通貨を收縮する效果を齎すに至つた。

第二、政府は英蘭銀行に向つて、臨時借入金を返濟し、殊に租稅幷に一般公衆の應募した公債の收入に依つて、大藏省證券を償還したこと。此場合に公衆が租稅を納付したり、公債に應募するに當り、其稅金や、應募金は銀行に有する當座預金に宛てゝ、振出した小切手を以つて、決濟するから、其金額だけ、預金を減却して、信用を收縮することゝ爲つた。

第三、銀行は戰爭中買入れた公債、大藏省證券の類を市場に賣却したこと。市場に於て是等證券を買入れた者は銀行宛の小切手を以つて、代金を決濟する爲めに、其れだけ預金を縮小する。而して政府が大藏省證券の期限の到來するに隨つて、新證券なり、銀行の借入金なりに依つて、之を借換へず、增稅又は公衆の應募に係る公債の收入を以つて、之を償還する手段に出でた。

第四、政府は漸次政府紙幣中、正貨に依つて、代表されざる部分を減却することに勉めた。此事たる、政府紙幣銷却金勘定中に於ける政府證券の高を減じ、之に代うるに金貨又は金貨を代表する英蘭銀行券を以つてすることに依つて、行はれるのであるから、斯る政策の行はれるに隨つて、一方に政府紙幣其ものゝ減少を來すと共に、他の一方に於ては、市中諸銀行の所有する支拂準備金を減少せしめ、斯くて通貨の縮小に最も重要なる效果を及ぼすに至るのである。

兎に角英國に於て、戰爭前に比較して、三倍近くに騰貴した諸物價をして、五割七分の騰貴率までに引戻すに至らしめたと云ふことは、決して尋常一樣の出來事ではない、種々の方面に幾多の勢力の働き出して、此結果を齎すに至つたことは明白の事實である。而して此事實は一國の物價政策を定める上に於て如何なる實物教訓を與へるであらうか。物價の趨勢は之を自然の成行に放任して置いても、或る時期が來つたならば、調節されるであらう。然しながら何事の施設を爲さずして、其時期の來るを待つとしたならば、其間に國を擧げて、インフレーションの弊害に苦しましめざるを得ないばかりでなく、既に諸外國が物價の調節を行ひつゝある間に於て、或る一國が之を閑却して居つたならば、外國貿易の關係に於て、必ず不利の影響を蒙らざるを得ないのであつて、此點から物價調節は之を閑却するを得ないことゝ爲る。

物價調節策の三種類

物價の調節策は大體に於て、其働きから見て、三種に區別することが出來ると思はれる。其一は技術的方面の施設であり、其二は自然に生ずる調節作用に向つて、人工的促進を加へることであり、其三は自然の働き如何に拘はらず、物價調節に必要なる人工的手段を施すことである。前記英國に於て行はれた調節手段中、物品の運搬運送を敏速にしたとか、運賃保險料の低減を謀つたとか云ふが如きは、即ち右の第一種に相當する。日本政府が過般世間に公表した物價調節策十九項目の內、(五)日常必需品に對する鐵道運賃を輕減すること、(六)日常必需品に對し一層輸送上の便宜を圖ること、(七)冷藏車の數を一層增加すること、(八)主要都市に於ける小運送賃の低下を圖ること、(九)主要都市に於ける電車に夜間貨物運送の設備を爲さしむること、(十)出荷組合の設置を奬勵することゝ云ふ數個條のあるのは、即ち技術的方面の施設である。

然らば我國に於ては、今日物價の下落を促す可き自然の勢が現はれて居るかと云へば、私は微弱ながら其勢が現はれて居る、然も政府が常に此勢を阻止する政策を施しつゝあることを否定するを得ないと考へる。近年我國の外國貿易が我國に取つて、著しき逆勢であつて、常に大なる輸入超過を生じて已まない、而して此輸入超過たる、我國の諸物價が諸外國に對して不廉であり、爲替相場も亦輸入を利と

する狀態に居る結果として生ずるものであつて、之を自然に任せるのが即ち物價調節の要訣である。然るに我國に於ては此點に就て如何なる事が現に行はれ、又將來に行はれようとして居るであらうか。現に金輸出の禁止、之に伴う爲替相場に對する人爲的干涉の如き、明に我國に於ける物資の輸入を困難にし、又通貨の適當の程度に收縮される勢を妨害することに依つて、物價の調節を困難ならしめる所以と認めなければならぬ。而し我國に比較して、甚だしく通貨價値の低落して居るとか、又は生產費低廉であるとか云ふような國から、我國に向つて物資が輸入される形勢を生ずると、我國に於ては或は我國と他國との間に於ける通貨價値の相違なり、生產費の相違なりを標準として、總て輸入品に對する稅率を加重し、以つて其輸入を遮斷しようとして已まない。是れ亦物價調節の目的に背反することの甚だしきものと認められるであらう。英國に於ても戰時內國に勃興した事業が外國輸入品の競爭に依つて、存立の基礎を脅かされた際に、內國產業の保全を理由として、關稅政策を利用したことはあつたが、此趣意を以つて、輸入稅の賦課された貨物は極めて少數であつて、他は自由に國內に輸入される一方に、內國に於て多少物價が下落の緒に就けば、當業者は此不景氣の形勢に順應する爲めに、盛に營業費の節約を行ひ、其一項目として賃銀切下げの手段に出た。生產費が減縮されゝば、物價の規準とする所が從來に比較して、低きに至ることは勿論であると同時に其低きに至つたことは、單に一時の現象に止まらずして、永遠に亘るものと見なければならぬ。加ふるに政府の經費縮小と銀行の信用膨脹に對する制限と相並び、相行はれて、インフレーションを制する働きを生じて居るのに對して、我國に於ては、毫も斯る働きを見るを得ないのである。

斯の如く日英兩國の事情を對照して考へたならば、戰爭以來の世界に於ける經濟上の變動に依つて、騰貴した物價は、我國に於て偶々當今行はれんとしつゝある技術的施設のみを以つてしては、之を如何ともするを得ない、物價騰貴の由つて生じ來つた經濟上の諸原因を除却することに調節策の根柢を置かない以上は、如何なる工風も遂に何等の效果を奏するに至らないことは、英國に於ける物價問題解決の實績に徵して、私の敢て斷言するに躊躇せざる所である。